COMBAT
コンバットマガジン
May,2018
No.506
5

Cover Illustration
M. Kelly(Satoshi Okada)
ⓒ WORLD PHOTO PRESS 2018
※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。

CONTENTS

【特集】
023 **MILITARY PATCH**
パッチの歴史を見る
ミリタリーパッチ大研究
●南ベトナム軍のパッチ　●ミリタリーキャラクターパッチ
●グリーンベレーのパッチ　●イラク軍パッチの研究

Psychological Operation in Vietnam War
第2回 **THE PAPER WAR**
ベトナム戦争のペーパーウォー

006 **DEATH CARD**
「死の♠カード」を配り歩いた男たち
SGM Herbert Friedman(Ret)

014 **LRRP** サイレント イーグルス **Silent Eagles**
迷彩服の静かなる荒鷲
by Jay Borman

022 **ベトナムを遠く離れて——。**
第2回 ネットって便利だわ。オークション今昔話
文／小倉 徹

141 **SHOT SHOW 2018**
装備・グッズ編

COMBAT FRONT LINE
065 祝！『PARADOX』4周年記念ゲーム！
066 **ウィンストン・チャーチル**
ヒトラーから世界を救った男
DARKEST HOUR
特殊急襲部隊SAT登場！
067 **警視庁総合対処合同訓練** 写真・文／菊池雅之
070 東京マルイ
ガスブローバック 89式小銃
076 ニッポンの力こぶ **IF18**
080 WESTERN ARMS
ウォリアー「ジョン・ウィック」モデル・リアルスチールVer.
084 WESTERN ARMS
スネーク・マッチ1911 CBHW Ver.

110 **トイガンニュース**
東京マルイ　バイソンPPCカスタム4インチ
WA　M4A1《アメリカン・スナイパーS-Ver.》
タナカ　U.S.M1A1カービン《パラトルーパーVer.2》
タナカ　S&W M629PCターゲット・ハンター
《ステンレス・フィニッシュVer.2》
タナカ　SIG P220 IC《陸上自衛隊Ver.》

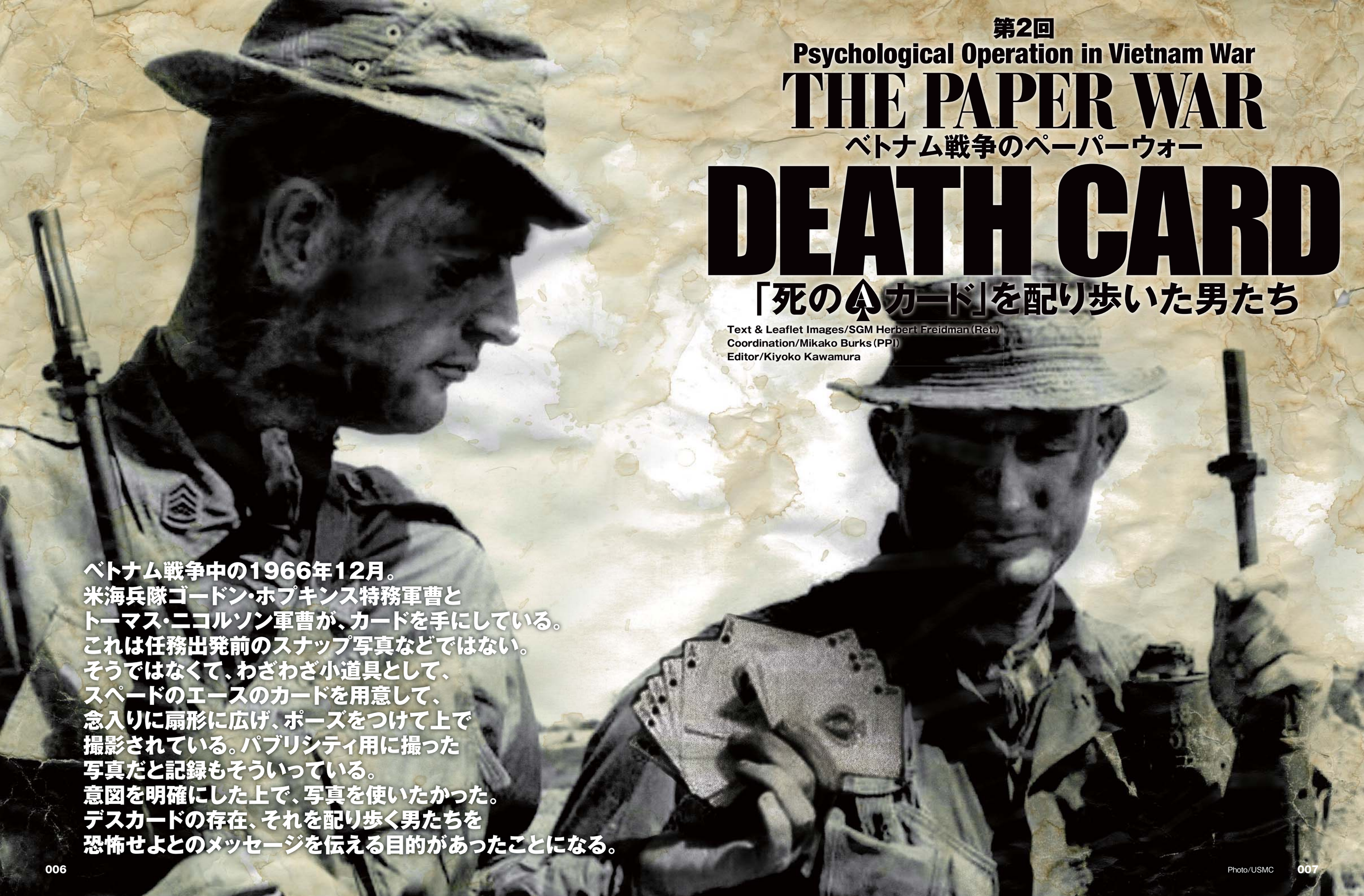
The Equipments of the U.S. Force
088 **[現用米軍装備カタログ]**
'90年代特殊部隊装備始動！ Part.2

098 **Militaria Roundup!**
ミリタリー・パッチ・アラ・カルト Part.1

036 中田商店コラム
062 Yuko's OUTPOST
104 Pick Up! Vintage Military World "SPICY"
106 MILITARY LINE
114 サバゲ三等兵【特別制圧編】
118 NEW GENERATION STYLER
126 レアミリタリー
128 PRESENT
140 ゲームOTT「ファークライ5」
148 新製品てんこ盛り！ COMBAT mono
152 兵装嗜癖
154 戦うおじさんたちのコラム「アラフォーズ」
158 バックナンバーリスト
159 次号予告

ミリタリースポッター
ミリタリービークルのレストアは、走ってナンボのものだと思います。
塚田恭平（K・Tアーツ）

Photo/Kesaharu Imai



第2回

Psychological Operation in Vietnam War

THE PAPER WAR

ベトナム戦争のペーパーウォー

DEATH CARD

「死の♠カード」を配り歩いた男たち

Text & Leaflet Images/SGM Herbert Freidman (Ret.)
Coordination/Mikako Burks (PPI)
Editor/Kiyoko Kawamura

ベトナム戦争中の1966年12月。
米海兵隊ゴードン・ホプキンス特務軍曹と
トーマス・ニコルソン軍曹が、カードを手にしている。
これは任務出発前のスナップ写真などではない。
そうではなくて、わざわざ小道具として、
スペードのエースのカードを用意して、
念入りに扇形に広げ、ポーズをつけて上で
撮影されている。パブリシティ用に撮った
写真だと記録もそういっている。
意図を明確にした上で、写真を使いたかった。
デスカードの存在、それを配り歩く男たちを
恐怖せよとのメッセージを伝える目的があったことになる。

Photo/USMC

LRRP Silent Eagles

サイレントイーグルス

迷彩服の静かなる荒鷲

ベトナムでは敵のゲリラ戦術に対抗するため、部隊の目や耳となる偵察部隊が重要視された。師団や旅団ごとに編成された長距離偵察専門の部隊はLong Range Reconnaissance Patrolの頭文字を取ってLRRP（ラープ）と呼ばれた。その技能の高さが認められるとより積極的な部隊運用のためにRECONNAISSANCEの表記が消え、LRP部隊として目覚ましい働きを続け、最終的にはレンジャー部隊に統合される。一般歩兵とは異なる装備と戦術で敵を大いに苦しめた彼らの活躍を紹介するシリーズ第2弾は、「スクリーミングイーグルス」の名で有名な第101空挺師団にスポットを当てる。

by Jay Borman　構成／鈴木健太郎
訳／河村喜代子

偵察部隊の名称が変わると部隊章の上のパッチも変わった。右の写真は68年にLRP部隊として活動していた時期のスクロールと呼ばれるパッチで、部隊章との組み合わせが美しい。

第101空挺師団は第２次大戦での降下作戦やベトナムでハンバーガーヒルと呼ばれたアシャウ渓谷など常に激戦地に投入される部隊として有名だが、ゲリラ戦や長距離偵察といった“静かな戦い”でもその力を存分に発揮した。1965年７月29日に第１旅団がベトナムに派遣されると12月にはLRRP小隊が編成されるが、この小隊は９個の偵察チーム（６人編成）で構成されていた。翌66年２月に第１旅団が行なった索敵掃討作戦“オペレーションハリソン”では北ベトナム軍第95連隊を発見する上でLRRP小隊が重要な役割を果たし、彼らの技術やノウハウがベトナムでのLRRP戦術の基本的な手順となった。68年１月に師団残余がベトナムに到着するとLRRP小隊は第58歩兵連隊F中隊（LRP）として改編されるが、その中核はLRRP小隊のベテランとアメリカ本土のフォートキャンベル基地にあったリーコンドースクール出身者で、非常に練度の高いLRP部隊が完成した。LRPチームの構成はチームリーダー、アシスタントリーダー、RTO（通信手）、ポイントマン（先頭）、ライフルマンと一般的な偵察チームと基本的には変わりないが、101師団のLRPチームにはRTOが２人用意されており、2nd RTOと呼ばれる砲撃要請専門の通信手がいたことに特徴がある。また必要に応じて「ヘビーチーム」と呼ばれる２つのチームをまとめた12人編成の偵察チームを用いることもあった。1969年２月１日に全てのLRP部隊が第75歩兵連隊（レンジャー）の各中隊として再編されると、101師団の第58歩兵連隊F中隊（LRP）は第75歩兵連隊L中隊となり、中隊の任務は情報収集である事が再度確認されると、この年だけで300回を超えるパトロール任務をこなし、敵の居所を100回以上突き止め、敵の殺害確認戦果は21人という結果を残した。戦争が進む中でL中隊はカウンター攻撃や待ち伏せにも用いられたが、71年12月に活動を終えるまで膨大な情報提供を行ない師団の目や耳として名称を変更しながらベトナムで最も長く活躍した偵察部隊となった。

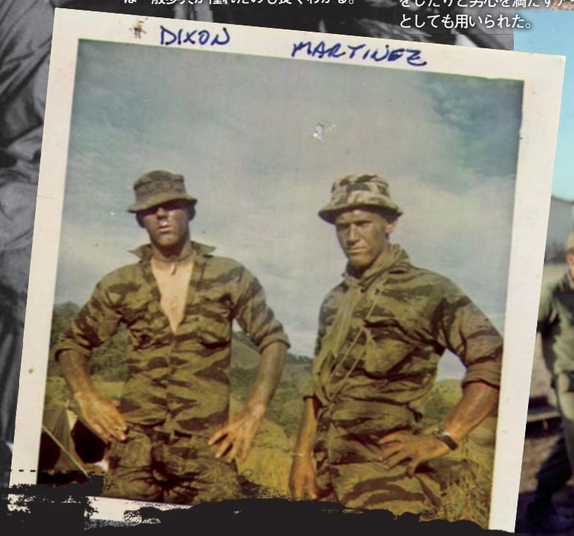
左上はF中隊のメンバーが被っていたベースボールキャップ。ベトナムではローカルメイド品をお揃いのカラーにすることは良く行なわれたのだが、黒いキャップにリーコンドー章と空挺章を組み合わせるセンスは見事という他ない。リーコンドー章はLRRP戦術の講習を修了した証で、部隊ごとにバリエーションがあった。

左はF中隊専用キャップを被った２人の軍曹。一般的にエリート部隊では非公式のベレーを被ることが多いのだが、101師団ではこのスタイルもお気に入りだった。下は出撃前にリュックを背負うLRRP隊員で、長距離偵察任務では、専用のリュックに５日分の荷物を入れていた。迷彩服の裾がタックインされているが、これは上着がバタつくのを嫌がる空挺部隊ならではの着こなし。

偵察隊員はその任務の性格からヘルメットを被る者がほとんどいない。代わりにブーニーハットと呼ばれるふにゃふにゃの帽子を被るのだが、もちろんこれも迷彩が彼らのお気に入り。服とパターンを合わせる場合もあるし、逆に目印としてデタラメに組み合わせることもあった。

お揃いのキャップとERDL迷彩でお洒落に決める隊員達。この迷彩服は数ある「カミーズ」の中でも人気の品。

タイガーストライプやERDLといった迷彩服を着られるのは偵察部隊や特殊部隊など一部の将兵に限られていたので、ベトナムではこれらのカミーズを着たいがために志願する者も少なくなかった。彼らの姿を見れば一般歩兵が憧れたのも良くわかる。



出撃前にフェイスペイントを塗る。塗り方はマニュアルがあったのだが、滅多に守られることはなく、迷彩服のパターンに合わせたり、泣く子も黙るような恐ろしいメイクをしたりと男心を満たすアイテムとしても用いられた。

MILITARY PATCH STORY

ミリタリー・パッチ・ストーリー

解説／菊月俊之

兵士の所属、資格、職種等を示す布製の徽章。
ミリタリー・パッチは国や時代で多くの種類が存在し、
そのデザインは一般のファッションの分野にも浸透している。
本稿ではそれらパッチを部隊章を中心に紹介しよう。

パッチ、ワッペン、そしてアップリケ

ミリタリーの世界では“パッチ”と呼ばれる布製の徽章。一般には“ワッペン”や“アップリケ”とも呼ばれ、ミリタリー以外にもさまざまな種類が存在している。軍の徽章としてのパッチについてはひとまず置くとして、まずは呼び名から見て行こう。

まず一般的に呼ばれる“ワッペン（Wappen）”だが、これはドイツ語で「紋」や「紋章」の意味。日本では1960年頃から、ブレザーコート等の胸に付ける盾型の徽章を指すようになったという。

次に“アップリケ（Applique）”だが、こちらはフランス語。本来の意味は「取り付ける」、「当てはめる」で、語源はラテン語の「張る」、「付ける」だ。“アップリケ”は一般には台地布に別布や皮革、金属、ビーズ等の多様な材料を重ねて縫い付ける手芸の手法を指し、インドやペルシャに起源を持つ。そしてアップリケという単語は日本語だけでなく、英語の借入語にもなっている。

そして“パッチ（Patch）”だが、これは「当て布」、「小布（片）」の意味で、現在では「パソコンで使用するソフトウエアの書き換えを行なうプログラム」の意味でも使用されている。また“バッジ（Badge）”という表記も見られるが、これは所属、資格、職位、階級等を図式化した徽章の総称で、素材も金属だけに限定されてはいない。ちなみに以上の呼称は基本的に通称で、アメリカ軍における正式な名称は“ショルダースリーブ・インシグニア（Shoulder Sleeve Insignia）”、すなわち「袖肩章」で、“SSI”と略すのが一般的だ。

では軍の布製徽章“パッチ”だが、バッジの呼び名で触れたようにさまざまな種類が存在し、その数も膨大。ただしミリタリーの分野でパッチといえば、一般に部隊章を指すのが普通。そこで本稿では対象を主に部隊章に絞って紹介していこう。

東京マルイGAS BLOW BACK MACHINE GUN SERIES
89式5.56㎜小銃

“89式5.56㎜小銃”
日本の自衛隊が制式採用するアサルトライフルが、東京マルイからガスブローバックモデルで新登場!
リアリティーの追求からくる“楽しみ”と“高性能さ”。東京マルイ製だからこそ高まる“期待”、その注目ポイントに迫る!!

問東京マルイ☎03-3605-3312 http://www.tokyo-marui.co.jp/ Photo&Text by TOMO HASEGAWA

89式5.56㎜小銃
●全長：916㎜
（インナーバレル長：250㎜（予定））
●重量：4,000g（予定）
●装弾数：35発 ●発売時期：未定
●価格：未定

東京マルイ製の電動89式から11年あまり。金属製のハンドガードなど、新たに89式GBBモデルが新登場！ 膨大な資料を基に、外観を電動ガン以上に可能な限り忠実に再現。Zシステム89式Ver.を搭載。3バーストメカを標準装備！ 価格未定。

東京マルイ“ガスブローバックライフル”シリーズ注目の新モデル

東京マルイ「89式5.56㎜小銃」がついに“ガスブローバック”で新登場!!

2017年11月に開催された東京マルイフェス4thにて発表されたビッグニュースだ。新製品としてただでさえ注目が高まるところを、しかも大好評のガスブローバック（以下“GBB”と略）として新登場。ほかにも新製品が多い中、やはり89式小銃に話題が集中。注目度を物語っていた。

「“新生”89式」という情熱

東京マルイ製89式といえば、スタンダードタイプの電動ガンとして「89式5.56㎜小銃」が、固定銃床と折曲銃床の２タイプ揃って好評発売中だ。2006年７月の発売から11年以上が経過。現在も人気が衰えない、東京マルイ製品のベストセラーモデルなのだ。

今回の製品は電動89式のバリエーションでもリニューアルでもない。新たに“ガスブローバック”モデルとして新登場。外装パーツで共通しているのは脚とストックのみ。他はすべて新規パーツだという。今回は開発中のガスブロ89式を直に撮影＆取材。まずは東京マルイ電動89式との違いをポイントに、気になるところチェックしていこう。

●レシーバーとグリップ

レシーバーは亜鉛ダイキャスト製。実銃89式を重量からリアルに再現すべく、敢えて亜鉛製を採用したという。外観で目立つのは「89R」刻印。現行の実銃を再現した刻印で東京マルイ“新”89式をアピール。また、エジェクションポート周りやレシーバー後端の両サイドにあるプレートなど、形状はもちろん、溶接跡などの細部の表現までリアルに進化している。グリップには実銃同様にメンテナンス工具用のキャニスターとして機能する。モーターが無いGBBならではの再現力だ。

●リアルな“素材感”が魅力のハンドガード

注目はハンドガード。専門的に“被筒（ひとう）”という部分が、今回新たにプレス加工による金属製と樹脂パーツによる、実銃同様の二重構造で再現。「なにもここまで頑張らなくたっても……」と、正直当初は思ってしまったが、実際撮影してみて、とてもリアルである事に気づいた。金属部分の独特の形状や長楕円の穴など、切断面や曲がり具合にプレス成形独特の仕上がり形状があり、なんともリアルな雰囲気が醸し出されているのだ！ 金型だけでは再現できない“素材感”と言えばいいだろうか。雰囲気を含め存在感のリアルさに、改めて目が覚まされた感じだ。やがて使い込めば傷ついて金属の地肌が露出してくるだろう。凹みや擦れなどのキズも含め「実銃同様の経年変化が楽しめる！」と言ってしまっては言いすぎだろうか？

今回、ガスブロ89式小銃を製品化するにあたり、電動の89式を製作した当時の資料を見直すだけでなく、新たに膨大な資料を加え、可能な限り実銃に忠実に再現できるようチャレンジしたという。電動と今回のGBBでは機構が違うのだから当然といえば当然。しかし、機構だけでなく外観も含め、当時できなかった性能とアクションを盛り込む事に努めたのだ。

「好き者による、好き者を納得&刺激する魅力の製品作り」。東京マルイらしいポリシーが、機構だけに留まらない“新生”89式小銃の原動力にある。

人気の純国産ライフル“89式”

東京マルイ製の89式でGBBの企画は“M4 MWS”を製品化した時からあったという。「M4をGBB化した次はHK製品？」「いやいやAKでしょ……」などとなりそうなものだが、東京マルイのGBBライフルのスタートは王道のM4で、次にあったのは89式だったという。

理由は89式小銃の人気にある。

2006年７月の89式電動ガン発売以来、人気が衰えないモデル。ガン好き、それも日本人であれば自国の銃に少なからず興味があって当たり前。しかも良いエアソフトガンがあれば欲しくなる。情報が少なかったところへ、東京マルイから電動89式が登場。自国防衛だけでなくテロなどに備え変革する自衛隊とともに人気がアップ。エアソフトガンのベストセラーモデルの一つとして今も揺るぎない人気を誇っている。逆に、東京マルイの電動89式があったからこそ、今の人気がある……なんていうのは話しが飛躍しすぎだろうか。

そして今回、東京マルイから新たに89式のGBBモデルが登場。電動ではできなかったアクションと高性能を備え、新しい楽しみをもたらせてくれるはずだ！ 次回レポートをお楽しみに！

40th Anniversary 装備編 2018 SHOT SHOW

世界最大級のガン・ミリタリー・アウトドア・ハンティングの見本市、ショットショー。前回のガン関連に続き、今回はバッグやポーチ、ホルスター、装備などのギアを、コンペティションシューターの鮫島宗貴がレポート! Photo＆Text by Muneki Samejima（鮫島宗貴）

ショットショーのメインフロアでブースを構える5.11タクティカル。もはやほとんどの人が知っている有名ブランドだ。そこにあったマネキンが着ているのは、5.11が初めて手掛けるカムフラージュでVeil Camoとパートナーシップを結んで作ったGEO7 Camoだ。2018年は各製品にこのカムフラージュを採用して発売していくとのことだ。

こちらは目立って新しい訳ではなかったが、警察官用のユニフォームの新製品だ。Woolmark（ウールマーク・カンパニー）と組んで制作され、高品質が保証される。

世界最大規模の銃器トレードショー（見本市）とされるショットショーは、2,000社前後の企業が出展し、６万人を超える人々が世界100ヵ国以上から集まる巨大なものとなった。その企業も銃器メーカーに限らず、射撃、ハンティング、アウトドア、警察・軍関係と幅広い種類の企業が名を揃える。僕個人としては、銃器メーカーを中心に取材を行なうのだが、今年は装備関係の取材も行なう事になった。正直、まったく知識がないわけではなかったが、装備品関係は専門の方と比べて如何しても疎い……。僕がちゃんとレポートを行なえるのかが不安ではあったが、思い付く限りの有名ブランドを中心に各ブースの様子や新製品を取材してきたのでご紹介しようと思う。今回の取材を通してショットショーの会場を文字通りに駆け回った事でその巨大な会場の広さ、業界の奥深さを身をもって感じる事ができた……（笑）。

5.11 Tactical

こちらのバックパックはAMP（All Missions Packs）シリーズと呼ばれる2018年秋発売予定の新製品だ。AMP12、24、72と３種類のサイズが用意される。番号は時間を意味し、72であれば72時間の行動に必要な物品を収める事ができると言うわけだ。バックの前面にあるのはHexgridシステムと呼ばれるアタッチメントになっており、さまざまな角度で各種ポーチ、バックなどを装着できるようになっている。バックは貝のように開き、72のサイズであればストックを折り畳んだライフルも収納できる。

このプレートキャリアはAMPバックパックと同シリーズとなり、All Missions Plate Carrierと呼ばれる。特徴としては、AMPと同じHexgridシステムを使用し、各種ポーチの装着ができる。またこのHexgridは不要であれば、そのまま取り外しもできるようになっている。